



NPO PTPL “ともいき” 便り No.44

■大寒（だいかん）

1月20日から2月3日までの節気

（2014年1月20日発行）

「大寒」は文字通り、1年中で一番寒く各地の最低気温が記録されるころです。全身の羽毛を膨らませて真ん丸になって電線に止まっているふくらスズメのかわいらしいこと。雪国の大雪注意報を気にしながらも、今日は冬、明日は春と行きつ戻りつ、三寒四温の日々です。

さて、今年の冬は例年にない大型寒波到来で一層厳しい冬になるという予測があります。実際、北海道や信越地方では記録的な積雪量が報告されています。でも、私は小寒から大寒の時季に楽しみが2つあります。ひとつは富士山。以前フェースブック「ともいきぐらし」

(<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>)でも触れましたが、私は東京都杉並区のJR中央線沿線に住んでおり、この時季、駅ホームから富士山が晴れ渡った青空に浮かぶ姿が見える日が多いことです。やはり、富士山が見えると気持ちがいいものです。

もう一つは、月がとても綺麗なことです。寒い日ほど空気が澄み、月が一層綺麗に見えます。月自体が眩い光を発しているように錯覚するほどです。

さらに、この時季の天気予報の日本地図を見ると、北海道から東北、甲信越、北陸、中国、九州地方まで日本の半分が白く雪に覆われていることが伺えます。一方、南西諸島や小笠原諸島は20度前後の気温です。あらためて日本は気候的にもユニークな国だからこそ、多様な風土、文化が育まれていると感じます。

話は変わりますが、先日NHKの番組を偶然見る機会がありました。茨城県の水戸市にて、痴呆者のデイケアサービスセンターの隣に保育園をつくり、「世代

間交流」に取り組んでいる話です。代表者の話によると、この取り組みによって、普段接する機会の少ないおじいちゃん、おばあちゃんに対し、子どもたちは「おはようございます」「元気？」「大丈夫？」など自然に挨拶の声かけができるようになり、また、おじいちゃん、おばあちゃんからいろいろなことを教わり、良い経験ができると最初は疑問に思っていた保護者の評判の上々です。

さらに、デイケアサービスを受けるおじいちゃん、おばあちゃんたちも、子どもたちに会えるということで、表情が豊かになり、生活に張りが出てきて元気に過ごしているようです。この取り組みは大学でも注目を浴びているそうです。

この話を聞いて、NPO PTPL が提唱する“ともいき社会”のひとつの好事例ではないでしょうか。

文：佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局)

■ ともいき・ともうみ雑感彼是

● 新年に考えたこと

<不思議なこと。>

1月6日はテレビ局で、一日早い「七草粥」(せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ)の取材が報道されていました。これを見て、私はチョット考えさせられてしまいました。

1月7日の「七草粥」は疾病を祓う意味があり、七草粥を食べる風習は青葉の少ない時季にビタミンを取り入れ、ごちそう続きで疲れた胃腸を整えるのにも最適でした。

しかし、七草は1月7日では露地物は育っていません。この時季の七草は促成栽培かハウス栽培の七草でしょう。スーパーや園芸店に並ぶ七草はあまり元気がありません。

明治の改暦の時、人日の日付(1月7日)を旧暦のまま、新暦に据え置いた弊害です。2月6日の「旧七草」の頃には露地物の丈夫に育った七草で粥を食べられます。節分、立春も過ぎた2月6日の頃に咲く七草の若葉を食べることで無病息災と長寿を願うのです。太陽の光を十分に受け、自然の雨や風を受けながら大地で生き生きと丈夫に育った七草でつくった粥だからこそ意味があるの

です。

取材している人たちは何も感じないのでしょうか。このことに言及している取材はありませんでした。不思議です。形式だけの年中行事やしきたりを実行するのではなく、本当の、真心のこもったしきたりを受け継いでいきたいものですね。

“ともいき”の和魂を忘れないようにしましょう。「日本人に戻る」ことはとても大切です。

・ゆっくりと、急がず、焦らず、丁寧に、一日一回“ともいき暦”を。“ともいき暦”はあなたの生活の知恵です。

<春とは。>

元日、三ヶ日、小正月（1月15日）ころまでは、あちこちで「迎春」「新春」「頌春」「賀春」など「春」の字を多く見かけます。何故この時季に春なのでしょう。元日、新年を迎え一週間もしないうちに「寒の入り」となり、一年で一番厳寒の小寒と大寒の節氣を迎えるのです。いくら春が待ち遠しいといっても少し早すぎます。

その理由は・・・・・・・・・・・・・・・・。

明治政府の改暦により、明治5年（1872年）12月3日が明治6年1月1日となり、この日から旧暦を廃止して、世界共通の新暦、現行カレンダーを使用するようになりました。それまで千数百年も使用していた旧暦の元旦は立春に一番近い朔（新月）の日ですから、新年はまだ寒い時季ですが、身の回りには春の兆しを感じられる頃です。今年の場合は1月31日が旧暦の元旦（NPO PTPL では“ともいきの日”とっています。）、2月3日が春の節分、そして2月4日が「立春」、春が立つ日です（一陽来復して春になる日）。旧暦では新年に「迎春」「新春」といっても季節的に違和感は全く感じられませんでした。「新年」と「春」はひとつの「対」になっていたのです。この旧暦の風習が改暦となって、以後も慣例化して新年に春の字が何の疑問もなく、そのまま使用されるようになったのでしょう。

皆さんはどのように考えますか。季節感のズレを感じませんか。

・お隣の国、中国・韓国・台湾では1月31日からの春節の準備が始まりました。中国・北京では大気汚染、PM2.5で昼でも視界が悪い日が続いているようです。CNNのニュースなどではほとんどがマスクを着用している道行く人びとへ

の取材が盛んで、春節の長期休暇には大気汚染がないよう、天気の良い春節を迎えたいとっていました。また、日本の大晦日に相当する1月30日の花火や爆竹が大気汚染の悪化につながるとして控えるようです。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■ 事務局だより

●ステキなプレゼント

1月15日の「小正月」の日、勝田理事長が自宅の庭に咲いている赤い寒椿の切花を事務所に持ってきました。それも、素敵な鉄瓶と竹筒に活けて……。やはり花はいいですね。殺風景な事務所に赤い寒椿の切花があるだけで季節感と和みが生まれます。

●「おらが富士」の今後の展開のご紹介

NPO PTPL の活動の一つである「おらが富士プロジェクト」。担当の尾崎さんが関東周辺の「ふるさと富士山」を取材した模様はフェースブック「おらが富士計画 ふるさと富士山探し」にアップしており、ご覧になった方もいらっしゃると思います。今月から都内 100 以上あるといわれる「富士塚」の取材に入るため、資料整理の真っ最中です。(<https://www.facebook.com/oragafuji>)

「富士塚」は富士信仰を生活の中に取り入れた江戸庶民の知恵であり、当時、富士山は女人禁制の山であったため、女性も気軽に参拝できるということから、かなり人気があったようです。しかし、現在の東京で「富士塚」から富士山を拝むことはほとんど出来ません。残念です。2月上旬からフェースブックでご紹介しますので、ご期待下さい。

●新しいコンテンツのご紹介

①「麗峰にして霊峰 富士山 日本人の心神です。」

(<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2014/iframe/ptpl/congratulations-fuji7.php>)

②オペラ歌手の豊田喜代美さんが唄う「唱歌・ふるさと」

(「ともいき暦」(<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2014/>) の7月1日の富士山マークをクリック)

以上2作品をアップしました。ぜひ、ご覧ください

■お問い合わせは

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都 港区 虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル 7階

電話：03-6205-7503

FAX：03-6205-7504

Email：info@plantatree.gr.jp